

	<p>実地体験</p> <p>看護師間の交流、連携</p> <p>看護師の役割</p> <p>刺激と姿勢・意識の変化</p> <p>残念と要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PT、STのリハビリを見学出来、満足している。 ・褥瘡についても他病棟で見学できて良かった。 ・命の大切さ、思いやりに触れることができた。 ・目的のターミナルケア、リハビリテーションについて、忙しい中指導者について見学できた。 ・リスクマネジメントについては講義+病棟内スタッフの実施にて学ぶことができた。 ・細かい指導を受け、施設で行なっていた処置の間違い等に気づき勉強になった。 ・緊急時の対応については、施設での緊急とはニュアンスが違うが、急性期の病棟で患者さんに関わらせて頂く中で学べた。 ・講義を受けたものを実際に病棟で見学や体験ができてよかった。 ・他施設の方々とも意見交換ができ、有意義だった。 ・病院と老健の関係などについて考えることができた。 ・第一線で働く看護師の姿に勇気をもらった。 ・プリセプターの方だけでなく、スタッフの協力もあり自分が思っていた以上に達成できた。 ・施設看護師の役割・位置づけの曖昧な部分が、この研修を通して明確にできるかと思う。 ・これから何をすべきかが少し見えたような気がする。 ・すぐ実行できそうなものは口腔ケアの部分で、実践していきたい。 ・今現在の自分の課題、今後のホームのあり方、課題等がわかり充実した。 ・日常業務をこなす中、悩んでいた、リハビリ科との違和感をどう解決に向けて改善するかヒントを得た。 ・在宅に代わる施設としては学ぶことが多かった。 ・看護業務の見直しを考えていたので、看護師の立場向上を考えて見直しができると思う。 ・痴呆の方との関わりがなく、残念だった。 ・他の病棟も見学したかった。 ・時間が足りなかった。 ・配置された病室にも他にも対象者がおらず、研修できなかった。 ・病院ということで、施設のように慢性化、重度化した方がおられなかった。 ・希望した研修内容の痴呆への対応については、対象者がなく具体的な情報交換を行うことができなかった点が4だ。 ・症状アセスメント、緊急時の対応はかえって脳外科の方だと学習見学体験できたのではないかと思う。 ・急性期施設におけるターミナルケアの記録だけでは詳しい患者さんの情報が得られなかった。 ・積極的になれなかった。 ・痴呆に関しては機会がなかった。 ・痴呆への対応について病院では治療優先であり期待していたものとは違った。
3	戸惑いと気遣い	<ul style="list-style-type: none"> ・病院と施設では違うので戸惑った。 ・病棟Nsは忙しいので何か訊くのも遠慮した。 ・全人的に高齢者ケアを学ぶ目標への気づきが、自分の課題に固執していたため、遅れてしまった。そのことで目標達成が不十分であった。
2		<ul style="list-style-type: none"> ・研修したい項目がそのまま実際の目標にはならないと思った。病棟での実習が短くなったことで、はじめに挙げた3つの項目について達成度は低い。
1		

表Ⅱ-7 今後の実践に役立つか：研修者 32名

評価点数	全体	青森 (病院研修)	長野		神奈川 (病院研修)
			(病院研修)	(施設研修)	
とてもそう思う 5	13	7	2	0	4
4	17	3	7	3	4
3	2	1	1	0	0
2	0	0	0	0	0
全く思わない 1	0	0	0	0	0

表Ⅱ-8 今後の実践に役立つか (回答理由)：研修者

評価 5段階	カテゴリー	理 由
5	知識・技術 管理・教育 面 ケアの方 法、考え方 姿勢、意識 の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容が充実しており、今後役立つ。 ・技術的な部分も参考になるものがあったので、実践していきたい。(自分が病院勤務していた時より変化していた…マニュアル化されていること、記録の整備、褥瘡の処置、等) ・安全管理、安全対策、人権尊重、倫理等、施設でやっていきたい。 ・マニュアル作成、上記目的に関して即実践できる。 ・色々、見たこと、聞いた事、実際に体験した事、すべての今回の経験は施設で役立つと思う。 ・糖尿病の指導、ウロストーマの施設としての受け入れ、褥瘡処置、陰部洗浄後の乾燥等すぐ他の職員に伝えて実行したい。 ・手洗いの重要性を指導していきたい。施設で行っている消毒方法の簡素化や患者さんの名前の問題(手首に名前のついたリボンをつける)など実行していきたい。 ・今すぐできる口腔ケアを始め、体位交換、体交枕の使用方法など、とても身近なケアを教えて頂いた。 ・事故防止のための工夫、スムーズに作業ができるようにと物を作ったり、活用したい部分が多くあった。 ・エアーマットの種類・用法などを聞き、必要性を実感し考えさせられた。 ・高齢者看護を改めて勉強できる場がある事で(確認しながら)必要な内容を、スキルアップできる。安心してケアに臨める。 ・一方的な視点から、問題をとらえている事が多かった事に改めて気づかされた。共通する問題に、どの様に取り組んでいるか(姿勢)が見えて、勉強の必要性と職場への提言の必要性や仕方などが学べた。 ・中途半端で行っていたこと、不安に思っていたことが分かった。 ・たくさんの気づきがあり、勉強していかなければならないと気が引きしまった。
4	知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・胃管、バルンカテーテルの絆創膏の固定方法、感染管理の実際、STによる嚥下リハビリ等、施設でも参考にしていきたい。 ・新しい物品の購入方法、おむつの工夫、O₂加湿器の考え方…等、施設で実践できることを学んだ。 ・寝たきりの方のリハビリを見学させて頂き、痰がゼロゼロしている時に肺リハの方法を行うことができ、施設でも実践したいと思った。 ・STによる舌運動の見学…施設に採り入れたい。

	<p>ケアの方法、考え方</p> <p>管理・教育面</p> <p>刺激と意の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・胃瘻管理・食事介助・褥瘡処置を見学できた。 ・具体的に挙げた項目（症状アセスメント・観察・痴呆のケア）は実習できなかったが、フィジカルアセスメントについての説明を受けた ・感染症については、病院のマニュアルを見せて頂き、施設で活用したいものをコピーしていただいたので、今後参考に出来る。 ・感染マニュアルやカルテ参照にて、観察事項や記録の書き方などの工夫、ポイントが学べたので、役立たせたい。 ・ワンファイル化は参考になった。（記録に取られる時間が多く、その記録が看護師間だけでなく介護士間にも分かる、共有されるために） ・施設で医務室の中だけでなく、介護の方とも話しあって実践できると思った。すぐにできることもあるので、実行していきたい。 ・施設長や事務サイド、寮母サイドに提案したりして必要と思うものは取り入れていきたいと思う。 ・サマリー、温度表の利用、口腔ケアなど施設でも活用できるものでした。今後、病院で学んだ事を活かしていきたい。 ・新規採用者への勉強会はやっているが、きちんとしたマニュアルがなく、OSTを含めた指導マニュアルなど、とても参考になった。 ・生理的安全欲求を満ちし、利用者の人権を大切に、自己決定・選択ができるような対応を今後したいと思った。（総師長さんの話は身にしみた） ・「高齢者の人権尊重と倫理的対応」の講義を受けて、専門職としての対応に欠けていたかもしれないと反省させられた。施設における看護師の役割に繋がると思う。 ・研修内容を施設の中で活用するために、条件に合わせて変化させなければならぬし、スタッフ間の共通認識を得る必要があると思われる。 ・自分の力を充分発揮できるよう、看護師の役割と連携について、その重要性を学ばせていただいた。利用者へのよりよいケアの提供を目指し、取り組んでいきたい。 ・脳神経について自分の苦手分野を学ぶことができたので役立てると思う。 ・研修で学ばせていただいた事はもちろんのこと、多くのNs仲間が前向きに看護の仕事や指導に頑張っている姿に勇気づけられ、エネルギーをもらった。まずは自分自身が勉強し、Nsとして人として成長していくことが重要だと気づかされた。 ・施設での看護が我流になっていた部分を反省し、看護への原点に戻れた。難しいかもしれないが、施設へ帰って変えていきたいと実感した。スキルアップというより意識改革ができた。 ・技術面では施設内では指導する立場にいたので、日々向上に努めたい。 ・看護技術、判断能力の確認ができてよかった。医師、看護師、介護士、PT、OT、STのかかわり方が勉強になった。 ・本来の目的ではない部分で得たことが多かったように思う。与えられた仕事をこなすことに専念する毎日であったが、行っていることがどういう意味をなしているか考えてみることを、行き詰まった時、原点に戻ることを気づかせてもらったことを伝えていきたい。 ・スタッフが共に患者様に向き合って実践していることが励みになった。
3	<p>ケアの方法、考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を施設の中で活用するために、条件に合わせて変化させなければならぬし、スタッフ間の共通認識を得る必要があると思われる。即実践したいことは、褥瘡予防について、手洗いの徹底等だ。 ・施設でも充実したリスクマネジメントを全職種で取り組み実践できるようにしていきたい。 ・即実践にならなくても、リハビリの進め方、患者さんへの関わり方、IVH管理 etc、研修させて頂いたことが有意義だった。

2	0	
1	0	

表Ⅱ-9 研修全般に関する意見・感想：研修者

項目	内容
研修の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・日が続つにつれ、あれも聞きたい、あれも見たいと自分の欲求が増えていった。 ・初日は自分が受け身になってしまい残念であった。 ・3日目にして病棟内の流れが少しだけ、分かった感じだ。病院という雰囲気慣れるのに時間がかかり、あまり自分から積極的に動けなく反省している。 ・病室で忙しいスタッフについて右往左往するばかりで迷惑をかけてしまった。始めのオリエンテーション時に研修希望を話し、調整していただきたかった。 ・研修者側が目標達成のための具体的実践内容をあげていなかったのも、指導者も困られたと思う。事前に目標を絞っておけば良かったと反省している。
研修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・担当の方は丁寧に教えて下さり、忙しい中質問にもきちんと答えていただき有り難かった。 ・病棟研修の時間内、自分自身の身の置き場がなく、とても困った。 ・講義が貴重だったので、もう少し時間を取って欲しい。 ・講義でターミナル他の話をもっと聞きたかった。 ・3日目にも講義をしたらどうか。 ・講義は身にしみる内容と、法律・憲法の話で現実とかけ離れる部分とがあり、後から噛み砕いて理解したい。 ・スタッフが忙しい中、丁寧に対応していただき有り難かった。 ・忙しい中、研修に関わって下さったスタッフに大変感謝している。 今後、特養も医療ニーズの高い利用者が入所される可能性もあり、今回学んだことを生かしていきたい。 ・雑誌などでしか見ることでできなかった機器、材料などを見て取り扱い方法を見学できてよかった。 ・他の病棟やレントゲン・検査室など簡単に見学できれば良かった。 ・3日間病棟が固定されていたが、できれば1日ずつローテーションできれば良かった。 ・施設にはOTやSTが常時いないので、もっと見学したかった。 ・他病室の見学が受けられたら良かったが、短日数では無理と思う。 ・プリセプターがついてくれて、心強く、またためになった。 ・有意義だった。プリセプターの方が100%対応してくれた。
連携、ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・北信地域での研修も検討していただきたい。 ・介護・看護をそれぞれ認め合い刺激しあい連携をとっていく努力をしていきたい。 ・自分の施設でやっている事を話したら、すぐにスタッフ全員で話を採り入れて下さることは、とても感動した。 ・研修者だけでなく、皆で吸収していく事が出来、充実した3日間になった。 今まで他施設で研修する事すらなかったので、今回研修ができたことはプラスになり、情報交換することにより、同じ悩みを抱えていることも分かった。 ・講義を受けて施設と在宅は共通する部分が多いと思い、訪問看護体験もやりたかったと思った。 ・他の施設の方々と情報交換が出来て良かった。 ・研修者の皆さんと情報交換ができ今後も継続して相談できると思う。 ・病院と施設それぞれの話になったりして、お互いに理解を深めることができた。 ・特養でも違いあり、また同じ悩みを持つことがわかり、話しをすることができてよかった。

要望	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、スキンケア全般（褥瘡、ストーマ、ウロストミー、創傷ケアなど）、専門看護師の処置の実際を学ぶ機会があれば良い。 ・今後も後輩を育てる意味でも、このような研修が継続されることを望む。 ・このような研修会は、これからも必要だと思う。 ・受け入れ病棟が決定したら研修者に病棟の希望を募るのはどうか。 ・特別な医療行為を見学することができなくて少々残念だった。 ・もう少し長い時間現場で学びたい。 ・痴呆の方との関わりがなく、残念だった。 ・病院の実習はとても魅力的だった。これからも実習を取り入れた研修をしていただきたい。 ・今回のような研修を定期的に関いてほしい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しい中、指導していただき、嬉しく思った。 ・施設と病院での看護の考え方、理念は変わらない。 ・命の大切さ、思いやりに触れることができた。 ・担当の患者さんとの会話が多いこと、患者さんの都合に合わせての処置・ケア中に手を握ったりの動作に感心した。 ・報告・連絡・相談が実習病棟では、良くできていた。 ・施設でのNsの姿勢を、もう少し、しっかりと持ち、職業人としてのプライドを大切にしたい。 ・師長さんはじめ看護師の一生懸命さ、それぞれの専門分野を持ち十二分に発揮されてる姿を見て感動し、日々の業務に流されながら働いている自分を反省した。 ・研修を通し、自分自身や施設の課題に気づき、施設の看護師の必要性を痛感し、その事をアピールしていこうと思った。 ・各看護師がケアマネの仕事をしなが、それぞれ分野別に担当を持って勉強している姿勢に頭が下がった。 ・若い時のように情熱を持って仕事をしていくように、新たに心意気を持って頑張りたい。 ・急性医療の中での勉強は、自分をふり返る、また自分の施設をふり返る良い機会になった。今まで忘れていた接遇を思い返した。新鮮な気持ちになり、刺激になった。 ・長い施設の業務の中でマンネリ化してしまった意識を変え、新しい方法を探り入れていこうという気持ちを持って、大変有意義だった。 ・新しい看護について勉強が必要だという刺激を受け、日々マンネリ化しないよう努力したい。 ・今回のように全く違う現場に身を置いて学ぶのは大変勇気がいったが、自分自身を見つめ直す良い機会となった。 ・病棟に褥瘡の患者があまりいないことが意外だった。ケアをしっかり行っているのだと感心した。 ・外科病棟は忙しいイメージがあったが、病棟全体の雰囲気良く、患者さんへの対応も早く、お話もちゃんと聞いてあげていて、余裕のある看護だと思った。 ・入浴時に、入浴前から最後まで一人のNsで行っていることには驚いた。 ・排泄介助ごと、スーパーの袋を使い、片づけ・消臭の配慮がなされているのは、とても良いと思った。 ・プリセプターの方や班長さん他部署の方々も嫌な顔一つせず説明してくださり、本当に感謝している。 ・積極性に欠けた自分には反省している。 ・自分を見直す上でも施設全体を見直す上でもよい研修と感じた。 ・今後このような体験できたらもう1回トライしたいと思う。 ・病院の看護師は患者サイドに立った視点で物事をとらえケアしていると、とても感銘を受けた。

<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの意欲、意識について実習病院は質が高いと思った。 ・看護と介護の協働についてディスカッションし改めてその重要性を再認識した。 ・自分の勉強不足を思い知らされた。今後の課題に気づいたことに感動している。 ・自分が目先の現象にこだわり、大局的に物事を考えていなかったか気づいた。 ・自分にとって不足している部分の勉強をしたいと思う。

(2) プリセプター

①研修者の目標達成、及び回答理由

「研修者が研修目的を達成できたと思うか」とプリセプター34名に対して5段階評価で問うた結果は、表Ⅱ-10のとおり、5が2名(6.3%)、4が14名(43.8%)、3が13名(40.6%)であり研修者に比べやや目標達成感が低かった。その回答理由は表Ⅱ-11のとおり、高い理由が「目的意識の明確化」「相互交流」「自己の振り返り」「刺激」などであり、低い理由は「研修者の準備」「プリセプター自身の準備」「期間」などであった。

②今後の実践に役立つか、及び回答理由

「研修は、今後の実践に役立つと思う

か」と問うた結果は、表Ⅱ-12のとおり、5が12名(35.3%)、4が13名(38.2%)、3が6名(17.6%)、2が3名(8.8%)であり、プリセプターも実践に役立つとした回答が多かった。その回答理由は、表Ⅱ-13のとおり、「相互交流・理解」「情報交換・連携」「刺激、自分達の勉強」等であった。

③研修全般に対する意見、感想

研修全般に関して、プリセプターの意見、感想は、研修の準備(研修者・受け入れ側)、研修時間、研修の方法、ネットワーク、要望、その他に分類して、表Ⅱ-14に整理した。

表Ⅱ-10 研修目標は達成できたか：プリセプター34名

評価点数	全体	青森	長野		神奈川
		(病院研修)	(病院研修)	(施設研修)	(病院研修)
とても思う 5	2	1	0	1	0
4	14	4	4	4	2
3	13	6	4	0	3
2	5	0	2	0	3
全く思わない 1	0	0	0	0	0

表Ⅱ-11 研修目標達成度評価（回答理由）：プリセプター

評価 (5段階)	カテゴリー	理由
5	相互交流と学び	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立しやすい施設の看護職が、現場の業務を共に実践しながら交流学习できたことは、大変大きな意味がある。 ・交流する中で様々な課題も発見され、研修者と受け入れ側両者が学びの場となった。 ・研修者が積極的な姿勢であったので、とても良い受け入れができたと思う
4	目的意識 相互交流 自施設の振り返りと刺激	<ul style="list-style-type: none"> ・目的にあった症状の患者さんに接することができたと思う。 ・質問もあり積極的に実習されており、コミュニケーションとりやすかった。 ・目的を確認しながら、見学等できた。 ・何を学びたいか、何をしたいかを、かなり具体的に言って頂いたので、それに沿って研修を進めた。積極的に動ける方だったので、学びはあったと考える。 ・希望されたコピー「介護事故報告書・対応処置・誤薬他」と「食事時窒息の緊急対応」と「経管栄養・管理等」をお持ちになったので、見て頂きたい。 ・目的があり、それを実施することができたように思う。 ・目的意識が非常にはっきりと伝わってきた。 ・講義を通して考え方を学ぶことができた。 ・実習の中で多くの質問があった。 ・病棟で行われているケアの現状を知ることができた。 ・それぞれ目的を持って研修にきておられ、積極的に取り組んでいるのが良く分かった。 ・直接研修者の方の感想を知りたい。 ・講義をし、リスクマネジメント、感染症対策で、今行っていること等お話ししましたが、2時間では話が尽きないし、他の施設の話ももっと聞きたかった。 ・講義をし、リスクマネジメント、感染症対策で、今行っていること等お話ししましたが、2時間では話が尽きないし、他の施設の話ももっと聞きたかった。 ・自施設の看護の振り返りができた様に思う。 ・仕事に流されがちだが、このような機会により、心が引き締まり毎日の仕事をふり返ったり考え直す機会になり、また他施設の情報も得られ、自分への刺激が得られた。 ・当病棟スタッフやご家族の協力により、環境調整がよくできた。 ・問題意識をお持ち、行動に移していた。漠然とした実施ではなく、明確な目的があるからこそ、明確な行動になると思う。 ・この研修の目標と、研修生の目標が一致していた。研修生の言葉や態度の中に、患者を全体的にとらえるや、アセスメントしていくなどということが、現れていた。
3	研修者に対して 指導者として	<ul style="list-style-type: none"> ・目標が大きすぎたと思う。もう少し目標を小さくして、どういう面を知りたいか具体的にした方が良い。 ・事前に具体的に計画レベルまで出して欲しかった。 ・主な研修希望内容の学習ができなかったと思う。 ・病院（当科）で行われている看護ケアや処置は直接結びつかないものであったのではないか。 ・一通り業務的なことや安全管理の面で参考になったところがあればと思う ・なかなか対象になる患者（痴呆老人への関わり希望）がおらず、困った。危険防止マニュアルを使って話しをするだけになってしまった。 ・こちらが忙しく電話や面会で話が中断して申し訳なかった。 ・プリセプターも3日間、同じスタッフは難しく、その場の対応になってしまった。 ・多忙な時期であったり、スタッフが十分いない中での実習ということで、しっかり関われなくて申し訳なかった。 ・研修者がどんな目標を持ちながら研修に臨んでいたのかあまり把握できていなかった。 ・時間的にゆとりのないケアが行われていたので研修者も巻き込まれ、目的

	期間	<p>項目に応じられない所もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3日間での短い期間では十分ではなかったと思う。 ・主催者側が意図するねらいと、研修者側のねらいや目標にずれが生じている事が問題。受け入れ側の私自身も意図するものが見えないまま終えてしまったと思う。 ・対象（研修者）の方の希望された項目に、どれだけそう事ができたか、自分では、不安が残る。 ・今回の研修は、高齢者を全体的にみる能力を身につけるというものであったが、各論に研修者がこだわってしまっているところがあった。実際に病棟で処置等見学している時も実際にホームで行っている方法を、当院のやり方を見て再認識したいという様子がみられた。本当に今回の研修目標を熟読し、理解しているのか疑問に感じる。
2	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生が自立しており、ケアの確認等は本人も経験があり、あまり意味を感じなかった。 ・書類・マニュアルの確認は進んで行っていたが、具体的な疑問や質問はなかった。 ・希望していた看取り・痴呆への対応が十分ではなかった。しかし、現在の医療・看護を知ることができたのではないかと思う。 ・事前に今回の研修の趣旨である高齢者ケアという内容をしっかり把握できていなかった。研修者と何をやるかを、わかるまで話し合いを持つべきだった。 ・最終日に、本当の目的に気づかれたとのことでしたので、達成できたかどうかは判断つきません。 ・研修者はもっと具体的な部分を知りたかったのでは実際ホームで困っていることを具体的にききたかったのではと、コミュニケーションをしながら感じた。
1	0	

表Ⅱ-12 今後の実践に役立つか：プリセプター34名

評価点数		全体	青森	長野		神奈川
			病院研修	病院研修	施設研修	病院研修
とてもそう思う	5	12	5	0	2	5
	4	13	4	3	3	3
	3	6	2	4	0	0
	2	3	0	3	0	0
全く思わない	1	0	0	0	0	0

表Ⅱ-13 今後の実践に役立つか（回答理由）：プリセプター

評価 (5段階)	カテゴリー	理由
5	相互交流と刺激	<ul style="list-style-type: none"> ・他者から我がチームの業務を見て頂き、アドバイスや意見交換ができた。その中からいくつか当荘で生かせそうな課題があり、参考にしたい。 ・質問される内容を通して、自分たちのしている業務に自信や課題を生み出せる。 ・他の施設の情報・ケアに対する工夫などを知り情報交換できる機会となりよかった。 ・学生とは違って、臨床経験があるのでいろんな視点での質問があり、病院としての役割・特徴を再認識できたと思う。 ・褥瘡について、自己学習する機会となった。 ・研修者の目的意識が高く、大変良い刺激となった。

		<ul style="list-style-type: none"> 施設内での患者様の過ごし方や看護者の活動、ケア内容を教えてもらい施設に対する私の偏見があったことに気がついた。 自分自身、今の看護に求められているものがよくわかった。自分自身、まだまだ勉強不足と感じ、もっといろいろ学んでいきたいと思った。 私も勉強になった。経験が、私より10年以上もある方のいわれる事は、とても得るものが多かった。指導という面での難しさを、実感できるいい機会だった。 自分の看護についても、振り返る機会になった。看護と介護の協働について話合う時間があった事は、良かった。 ホームでの看護の立場がわかった。そして、ホームで看護師として働くのは恐いと感じた。観察力、判断力、スキルが今以上に必要だから終末期ケアを行う中で、施設の考え方、やり方など聞くことができてよかった。 介護職との連携という部分では、私自身も日頃から悩んでいる所でもあり、今のこの状況はまだまだ良い方向へ変えることができると気づかされた。
4	自分達の勉強 相互理解 情報交換連携	<ul style="list-style-type: none"> 講義の準備で知識の再確認ができた。 自分自身のふり返りの良い機会となった。 自分自身も学習の場とすることができたと思う。 指導者としての心構えや自分の看護観を学んだつもりだが、なんとなくしか持っていなかったことに気づかされた。看護師としての未熟さを知っただけでも、十分勉強になった。 退院後の入所等に向けて、その患者さんのことで連絡はあるのか、お互いが理解し合う場がないため、「なぜ受け入れられないか」「なぜすぐ具合悪くなるのか」等一方的施設等への不満もある現状だ。その中で施設で働くナースの苦労を少し聴くことで、分かり合えるところがあった。 事例や実技を通し研修を共にできた。 他の施設の情報が聞けて良かった。 抗菌布、褥瘡の処置の方法なども参考にし役立てていきたい。 他部門で必要とされている情報と当現場からの情報のギャップを見直す機会となった。 今後は退院指導に携わる時、または入院を受け入れる際は今回の研修をふまえ、もっと介護サービスにかかわる人と情報交換を行っていきなう。 Pt 急患や変化におけるNsの判断、対応の重さが病院以上に施設のNsが大きいことに驚いたと同時に求められるものの大きさを痛感、自分も更に学習が必要と思った。 患者の退院後の生活が多少みえたように思った。高齢者を見るには、全人的にその人を見て、知識、技術も色々必要で、そして、アセスメント能力を、十分身につける必要があると再認識した。 自分が人に指導するという事で、何を考えて毎日業務しなければいけないかを改めて知る事になり良かったと思う。ただ研修者の思いが、どこにあるのかがわかってもし主催者側の意向にそってないと思い迷ってしまった。
3	情報交換 相互理解 刺激	<ul style="list-style-type: none"> 地域と病院の中での看護師の役割について考えるチャンスとなった。 相手の方にうまく伝わったのだろうか、自分を見つめなおす機会になった。 施設の現状や施設でのケアの方法など病院では見えない部分の話が聞けて良かった。 反対に施設のやり方を教えてもらうことができたスタッフもいた。 老健等、現場での話が聞けた。 老健施設の情報も少しは得ることができた。病院から施設に転院する人は少ないので、こちらにとっても刺激があった。
2	実習環境 時間 情報交換	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換が殆どできなかつた。現場実習が中途半端で、お互いが理解される前にバタバタ終わってしまった。良い実習環境でなく申し訳なく思う。 情報交換する時間がなく、こちらで頂ける情報も少なかった。 施設での現状の話も聞けた。
1	0	

II-14 研修全般に対する意見・感想：プリセプター

項目	内容
<p>研修の準備 目的意識</p> <p>意欲・姿勢</p>	<p><研修者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡の患者のいない病棟で突然、「処置を見たい」と言われ手配が大変だった ・目標を具体的に出してもらえば、病棟選択がより効果的になると思う。 ・対象の患者がいなかったため困ったし、研修者も受け身であったような気がする。何を学習したいか明確であったら良かったと思う。 ・自主性の不足を感じた。痴呆・看取りを学ぶ時、どういうケアを見る、自分はどこまでやるのかを明確にされてないので、どう関わって何を見せたら目的が達成できるのか分からなかった。 ・当日急にリハビリを見学したいと言われたが、他部門での見学希望は事前連絡して欲しい。また複数いれば看護部で対応して欲しい。 ・講義を聞く研修とは違い、他施設へ出かけて学ぼうという方たちの積極的な姿勢は素晴らしいと感じた。 <p><受け入れ側></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修者の学びたい内容が当病棟で行われていないことが多く、他の病棟や部署にお願いすることが多かった。事前に情報があれば、担当病棟を考えられたのではないかと。 ・リハビリは最初から実習項目としてあった方が受け入れが良いと思う。 ・実習時間が短いため、より具体的な実習計画を立案すると効果が上がると思う。 ・事前にプリセプターへのオリエンテーションがあったら、ベストだと思う。 ・研修者の希望する内容が大雑把でなくもっと具体的に事前に知っていれば説明・指導がスムーズだったのではないかと考えた。 ・学生の实習と重なり学生にも研修者の方にもマイナスであったと思う。日程を組んでほしかった。 ・情報として目的と経験について詳しくスタッフにも周知させるべきと思った。 ・研修の目的、目標を研修者がどれだけ理解しているのか、事前に確認する方法があるといい。研修への動機づけが難しいと感じた。 ・研修の目的、研修生について病棟のスタッフへも浸透させておいたほうがよい。 ・自分も研修内容を理解していなかったと思う。最初に先生方の話しを聞けばよかった。 ・研修生を受け入れる側として、病院全体（看護部）や病棟スタッフに研修の目的、目標をよく理解してもらいたい。片手間に研修生を受け入れるのは失礼だと思う。
<p>研修時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修したい内容が時間的にもスタッフの余裕の問題もあり、十分できなかった。 ・忙しい時期で研修者とあまり話もできなかった。 ・実習の時間が少なく、あまり深く関われなかった。現場にいる時間をまとめて取れば良かったかもしれない。 ・病棟研修の時間がもう少しあれば、よかったと思う。 ・研修時間が短いようで、見学、説明が主となってしまい実施の部分が不足しているように思う。
<p>研修方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームの担当者が一日の流れの中でポイントを、どこにおくのか具体的な方が計画しやすいと感じた。 ・指導者の受け持ちが、全て研修者の希望の患者さんでなく、どの程度役だったか不明だ。 ・課題別に5人で分担し、講義や実践を行った。それぞれの担当分野について、講義や実践を行うことで自信が生まれ、また、新たな課題をみつける事ができたと感じる。 ・プリセプターの役割等、細かいことが決められていた割には、実習時間の短さや病棟事情もあり、十分に機能しなかったのが残念だ。プリセプターの役割にプレッシャーがあった。 ・目的に合う患者が少なく、現場の調整が大変であった。 ・実習内容も広く浅くするのではなく、1人の患者や1つの関わりについてじっくりと考えていくというようにした方が、看護の質的向上につながると思う。
<p>ネットワーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の中で看護師の役割について悩んだり困っていること等、話の中から理解できた。私の病棟は施設との関わりが多いので、お互い知り合えて良かったと思う。 ・施設によってシステム等が違い、それでまた生じる問題がある等、全ての施設が

	<ul style="list-style-type: none"> ・足並みを揃えるということは、とても難しいと思う。また施設内における看護師の立場が弱いということは、とても残念に思う。看護師でなければできないことを主張していくためにも、技術や知識の向上は必要不可欠だと思う。 ・自分の施設が良ければいいというのではなく、もっと広い目でみられれば良い。 ・研修者の方から、高齢者施設の状況など、もう少し詳しく教えていただけたら、お互いの学びの場になったのではないかな。 ・皆意欲的で、今後連携をとり情報交換をして共に良い看護、介護をしていけたらと思う。 ・今回のことをきっかけに今後も情報交換を続けていきたいと思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・患者さんの退院指導の時、まだ慣れないスタッフだったが、研修生が訪問の経験もあってアドバイスを頂いて病棟にとっても良かった。 ・現場をずっと経験している研修者だったので、日々どんな事に疑問を感じて行っているか病院とのギャップがなく、こちらも何を言ったらいいのか分からない事が多かった。 ・初めて会った研修者と、同じ悩みや課題を共有した。またひとつ仲間の輪が広がったようだ。高齢者ケア研究会に生かしていきたい。 ・研修を受ける方の職場での立場により、興味深く注目される視点に違いがあると、前回、今回を比べ感じた。職場で責任者の立場か、スタッフの立場であるか、目の付け所が違い、自分も研修時はそうである事を自覚した。 ・ケアプランに沿った看介記録とは別に看護計画を採り入れている事の意味とメリットについて話をしたが、他施設の話聞く中で、飯田荘の記録方法は良いが、後充実とコンピューターを使用し簡素化しなくてはいけない部分の検討は必要だと感じた。 ・このような研修を行うことで、自分自身が生き生きとできたと思う。これからも続けていきたい。 ・患者さんの前で、その患者さんに関係のない質問等があり、スタッフが戸惑った。 ・逆に老健施設の見学・研修したいと思った。 ・講義の日と研修の日と別計画されたほうがよいのではと思う。 ・管理、指導面での業務が大きいようにも感じたので、管理的研修も加えた方がいいと思う。 ・今回の研修で時代の流れが変わっているのだと言う事を感じ、役立ってくれたら、と思う。 ・臨床経験が少ないため研修者にうまく説明ができず申し分けないと思った。 ・今後も続けていくことで、現場での情報を生かしてもらえればと思います。 ・病棟は、多忙で十分な実習環境ではなかったかもしれない。 ・研修生たちが少しでも気づける部分や先の見方が変化できていけばいいと思う。 ・これを機に次回このような機会があったら、研修者の心に響く看護を展開させていきたいと思う。 ・キャリアや立場のある方にどのように接したらいいのか悩んだ。どこまで見せたらいいのか、やってもらったらいいのか考えてしまった。こういう機会のマネージメントの難しさも反省としてある。

4) 研修終了直後のグループインタビューの結果

実地研修終了直後に研究者が研修者とプリセプターに対して其々に、①良かったこと、②困ったこと、③目標達成、④プリセプターによる研修体制、⑤今後の改善点、⑥期間・経費など、についてグループインタビューした結果は、次のとおりである。

(1) 研修者

研修者に対するグループインタビューの結果は、表Ⅱ-15 のとおりであり、現在の医療・看護の水準や自己研鑽の姿を眼のあたりにし、専門職としての厳しさや倫理等についての刺激やプリセプターによる研修

体制をよいと感想を述べていた。また、期間は3日間、研修費は1万円くらいが妥当とするものが多かった。

(2) プリセプター

プリセプターに対するグループインタビューの結果は、表Ⅱ-16 のとおりである。良かったことは、情報交換や相互理解であり連携に必要と述べていた。困ったことは、研修者のレジネスが分からないことや時間不足などであり達成状況も確認しにくいとし、今後の改善点としては、目標の明確化や調整、スタッフの協力が必要と述べていた。

表Ⅱ-15 研修終了直後のインタビュー結果：研修者

項目	カテゴリー	内容
1.良かったこと	新しい知識・技術の習得	<ul style="list-style-type: none"> 褥瘡の処置や糖尿病のケアなど老健ではそこ止まりの技術であったが、病院に来て改めて最新のものを聞くことによって、とても勉強になった。改めて考える機会になった。 自分で考える力を得たくて参加したが、病院の現場を体験してよい刺激になった。感染予防やリスクマネジメントとかを見習って施設に持ち帰りたいと思った。 経管栄養も普通に注射器の三方活栓を使ってやっているが、事故が起こるリスクがすごく大きいと気づいたので、そこから改善していかなければならない、事故が起こる前にそれをやらなければならないと思った。
	体験	<ul style="list-style-type: none"> 講義を受けた後に、実際に病棟で学んだことを見たり、体験するという点がよかった。
	実践に生かせる	<ul style="list-style-type: none"> いいことだらけの研修で、100%施設に帰ってから生かせることを全て学習できた。 口腔ケアとか褥瘡ケアでどうしたらよいのか悩む部分がいっぱいあったが、少し解決できるかなと思えた。教えていただいたことを実践して、いい看護とかいい介護をできるように役立てていきたいなと感じた。
	看護者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> 病棟の皆さんが、数名の入院があり、忙しかったにも関わらず何でも教えてくれて、普段の自分の実習生に対する対応を反省する機会となった。忙しくても笑顔で接するようにしないといけないことを感じた。
	アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> プロのアセスメントの仕方が自分にとってプラスになった。施設なので、どのようなポイントで医療に搬送すればよいのかという課題があったが、医療現場に要点をつかんだ観察ポイントを伝えることが必要だということ強く思った。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止対策が勉強になった。 糖尿病について今まで勘違いしていたことがわかり、勉強になった。
	相互交流理解	<ul style="list-style-type: none"> 他の施設の人と意見交換する場があって勉強になった。 病院と施設では看護の立場が全く違って、病院に来て果たして何を学んだらいいのかというのが正直なところでしたが、施設でも

	<p>確認と自信</p> <p>伝えたいこと</p>	<p>活用できるところがたくさんあって、思った以上に、勉強になった。自分が当たり前だと思っていたことが逆だったことが結構あり、新たな発見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サマリーについてだったが、病院側が施設に何を求めているか、施設が病院側に何を求めているかという意見交換ができたのが良かった。 ・施設と病院では大きく違うところはあるが、基本的な部分の患者さん、入所者の施設と病院では大きく違うところはあるが、基本的な部分の患者さん、入所者の方をケアするという部分では変わらないので、その基本の部分をしっかりやっておけばその施設、病院にあったケアができていくということ、施設でもちゃんとできるものがより明らかに、自分の中になった。 ・自分達の看護技術は間違っているのか正しいのかというところでちょっと不安があったが、いろいろ経験させていただいて、私達の看護技術は間違っていなかったという確信が持てた。気づきが多くてよかった。 ・口腔ケアの改善すべきところを見つけられ、リハビリも参考になった。作業がスムーズに行われるように病院でいろいろ工夫して作っているものもあったので、それも作ってみたいと思った。帰ってから皆に伝えたいことがたくさんあった。
2.困ったこと	<p>時間短い</p> <p>期間短い</p> <p>自分の意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義が20分ずつだと、講師の先生も早口で、もう少し細かい内容も聞いてもよかったのかなと思った。 ・困ったことは特にないが、できればもう一日あれば、病棟をチェンジして見せていただきたいと思うところもある。 ・4日間あれば2日間ずつ病棟をチェンジして実施でき、自分の課題を学ぶこともあるのではないかな。 ・何やりたいと聞かれても自分でも浮かばなくて、プリセプターさんを困らせたかなと思っている。
3.研修目標の達成状況	<p>達成感高い</p> <p>希望以上</p> <p>2か月後評価</p> <p>判断できない自分の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で質問したかったこともあらゆる面で8割方看護師さんに関けたので、達成できたかと思う。 ・8割方達成できたと思う。更に考えてなかった部分まで吸収できたり、施設に帰ったらどんどんそれを反映していかなければならないと感じた。 ・8割以上達成できた。 ・目標としてきたものは全部教えていただいた。 ・痴呆への対応については機会がなかったが、その他はいろいろ見学できたのでよかった。 ・痴呆の対応を研修希望にしていたけど、病院では治療優先でほとんど拘束という形であり、講義もなかったので残念だったが、希望した内容以上に得たものは多かった。 ・目的の部分で施設における高齢者のケアの質的向上を目指すは、向上を目指す気はあっても、実際にできるかどうかは本当に戻ってからじゃないと言えないので、今は判断できない。2か月後のアンケートでお返事したい。 ・目標が達成されたかかっていうと私もちょうと今は判断できない。 ・症状アセスメント、看取りのケア、倫理的判断の3つを重点的に研修で学びたいと思ってきた。言葉遣い一つにしてもちよっと私じゃだめだなって、こちらの働き方を見て思い、自分に欠けているところが見えてきて、私自身はすごく充実した研修だった。
4.プリセプターによる研修体制について	<p><良い>リード</p> <p>配慮</p> <p>調整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見学希望を吸い上げて対応してくれ、またどんどんリードしていただいて助かった。マンツーマンというよりは3人を3人でそれぞれリードして下さった。十分打ち合わせもできたし、学習する機会も与えてもらった。 ・課題に対するサポート、配慮はしてもらった。 ・こういうのを見たい、したいと言うとすぐ対応してくださって、また自分たちの休憩時間なんかもずらして対応してくれた。 ・皆、口腔ケアについて詳しく知りたい部分があったので、そのことを1日目の研修が終わった時点で話をしたら、調整をしていたら、皆と一緒に体験できた。いろいろ細かな調整というか、

		ここの病棟ではできないけどこっちの病棟ではできるといいたから、っていうそういうような調整をとっていただいたのすごくよかった。
5. 研修にあたっての事前準備・調整等	勤務の調整	<ul style="list-style-type: none"> ・少し医学書は見たりした。施設では研修参加のための調整はなく、すんなり参加できた。 ・調整はスムーズにいった。1週間とか長くなるとたぶん参加できなかったと思う。3日というのはとてもいい日数だったのではないか。看護師が3人しかいないので、3日あけるとその間、2人でやりくりしていかなければならない。 ・自分が3日間研修だとやっていけなくなるので、1日は休みにして、あとは研修が終わったら仕事に出る形でやりくりした。 ・1ヶ月前には研修参加の返事をもらったので、勤務の調整がうまくできた。 ・勤務表が出来上がってから参加の返事をいただいたので、変更してもらって参加した。 ・事前学習をもっとやっておきたかったというのをすごく感じた。 ・今あるマニュアルをきちんと整理して、把握することを事前学習にできた。 ・事前学習に記載されていた自分の施設での感染管理とリスクマネジメントを学んで、教科書を繰り返して見てきた。
	事前学習	
	メンバーへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の看護師長も研修に出ていたので、師長代行をしていたが、研修に参加するため代行をやる人がいなくて、残っている人には迷惑をかけたみたいだが、勉強してきますと出していただいた。
6. コスト、研修期間、実習施設	コスト期間	<ul style="list-style-type: none"> ・研修費は1万円くらいまで ・研修期間は3日間くらいが望ましい。オリエンテーションの時間を工夫するなどして、丸2日は実習にあててほしい。 ・3日間という短い期間なので、あれもこれも聞こうと逆に欲がでたかもしれない。 ・3日間だとなんとかやり繰りできる。 ・急性期のところでは、病院でやっていることで施設に役立てられることって何だろう、何があるかなって悩んだ。
	研修施設	

表II-16 研修終了直後のインタビュー結果：プリセプター

項目	カテゴリー	内容
1. 良かったこと	情報交換	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設との交流という面では、老健施設の情報を聞いたので、良い情報交換の機会だったと思っている。浴槽などは老健の方が良い設備があることを聞き、逆にそういう設備を見学したいと思った。
	相互刺激・学習	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔の援助などを一緒に施行して、慣れていて工夫しながらやっているところを見て、すごく勉強になった。 ・研修目標を頭に入れながらそれに沿って今日は何やりたい、痛みの患者さんのケアを集中的にやりたいですとか、2日目にはその患者さんのリハビリとか、自分の頭の中である程度計画を立てながらどういうことを聞いていきたいというふうにしたので、私も勉強になりましたし、指導もしやすかった。
	相互理解、連携	<ul style="list-style-type: none"> ・新人とか学生を指導するという機会は今までであるが、他の施設から看護師が来て研修をするというのは初めての経験で、いい刺激にもなった。 ・研修者が受診時の仕方、情報などについて課題を持っていたので、私たちは退院させるにあたりどういふふうな情報を流せばいいかなど私も分からないことは調べて話すというふうにし話し合い、お互いに効果があったと思う。 ・特別養護老人ホームという私のイメージが甘かったということを研修者から聞いて実感した。介護型に転院させるぐらいという見方でしたけどもっと奥が深いなと思った。
2. 困ったこと	相手のレジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・研修希望内容はわかっているが、どの程度の知識をもちながら実習にきて、どの程度のことを知りたいのか、どの言葉で説明していったらよいのかということでも多少悩んだ。

	<p>学生と重なり 説明方法</p> <p>自分のわから ないこと</p> <p>研修内容漠然</p> <p>時間不足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療処置を希望していても処置自体の何を知りたいのか、口頭でどこまで説明したらよいか、漠然として分かりにくいところがあった。 ・学生の実習と重なったので、ちょっと苦しかった。 ・緊急時の対応が見たいと言っていたのですが、急変の時の対応を口頭で説明するのは難しく、どうしていいかわからなかった。 ・研修者が緊急時の対応で悩んでいて、どこまで手をかけて、どういうことで病院へ送っておくのが良いのか聞かれたが、自分も分からず落ち込んだ。 ・研修の希望する内容が漠然としているので、もっと細かいところがあるとよい。 ・業務の流れと実習時間とのかみ合いで、処置とかでもやろうと思ったけど消滅しているうちに終わってしまったというようなことがあった。 ・最後の時間は心筋梗塞の患者さんが入ってゆっくり時間を取れなくてバタバタと最後の挨拶をしてしまったので、やり残したことや必要なものとか疑問などを聞く時間が取れなかった。
3.研修目標の達成状況	達成できた わからない	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の対応、リハビリは達成できたと思う。 ・達成できたとは思えない。目標、希望研修内容自体が広範囲に渡っている感じで、中身は漠然としたままで、どこに絞っていいのかわからないまま、その日その日で一緒に会話をしながら進めていった。中途半端に自分としては終わったような気がする。 ・目標からいくと大きすぎて達成できたかちょっと判断できないが、部分的なところでは十分学べたようだ。 ・日頃やっている部分では見せてあげることができたが、目標が達成できたかというところちょっと難しいと思う。症状アセスメントでも、もうちょっとやりたいことを聞いてピックアップしてできれば良かったかなと今になればすごく思う。 ・病院で今やっている状況を知りたいということだったので、一応自分のできる範囲でやったつもりでいるので、それなりに達成できたのではないのか。マウスケアなんかは参考になったということだったが、聞いてないのでわからない。 ・病棟自体が落ち着いており看取りのケアとか、呼吸器をつけてる方とかについては研修できなかった。
4.今後の改善点	<p>目標の明確化</p> <p>講義の時間</p> <p>スタッフへの 紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生にとって何が目標なのかははっきりわかれば対応しやすい。何を知りたいのか、どういうことを重点的に見たいのか、できればそれに合うような病棟への配置をすることによりもっと良い研修ができたのではないと思う。 ・講義は非常に忙しい思いをさせたかなと思います。30分というのはあまりのない、中身がバラバラなものですからどこに焦点を絞っているのかというようなちょっと分からないところがあって、30分の講義というのはきつい。 ・初日は研修者をスタッフに紹介したが、2・3日目の朝には言わなかったもので、自分の中では3日間の流れの中での感覚があったが、新しいスタッフは知らない人がいるけどという反応が若干あった。詳しくスタッフにも情報を流しておくべきだった。
5.プリセプターによる研修体制	<p>調整</p> <p>スタッフの協 力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プリセプター3人で研修者3人に対応した。誰か一人が希望したら、3人どうですかと聞いた。プリセプター同士でも話し合いをもった。いろいろな処置とかを見たいと言っていたので、他の病棟や透析室、リハビリへも調整見学してもらった。 ・3日間同じところだと偏りの教えるになってしまうのでやりたいことが達成できないかもしれないというので、お互いに経験項目のある方を交換してやりましょうという話を打ち合わせの時にした。毎日反省会を設けて、調整していった。 ・スタッフも協力はしてくれたが、自分のいない時は研修者はひとりぼっちになるし、私だけがこの目標を知っていて、私がいなかった時は師長さんをお願いはしたが、1人だけというのはちょっと難しい感じがした。

5) 研修2か月後の質問調査の結果

研修終了2か月後、研修者と管理者に対し、研修に対する評価と経費などについて、郵送によるアンケート調査を実施した結果は、次のとおりである。

(1) 研修に対する2か月後の評価：研修者

研修者に対しては、①研修で得たことを職場の方に伝えたか、②研修後、実践に変化があったか、③今回のような実地研修は有効だと思うか、について5段階評価で問うた結果、表Ⅱ-17のとおりであり、具体的内容が表Ⅱ-18のとおりである。

(2) 研修に対する2か月後の評価：管理者

管理者に対しては、①期待した研修の成果はあったか、②今回のような実地研修は有効だと思うか、について問うた結果、表Ⅱ-19のとおりであり、その具体的内容は表Ⅱ-20のとおりである。

(3) 研修に対する経費について

「この研修に対して研修費用（3日間）を払うとすれば、どれくらいが適当か」と研修に対する経費について、研修者と管理者に考えを問うた結果は、5000～20,000円としており、多くは1万円位が適当と回答していた。

表Ⅱ-17 研修2ヵ月後の質問紙調査の結果：研修者32名

		全体	青森 (病院研修)	長野 (病院研修)(施設研修)		神奈川 (病院研修)
職場伝達	伝えた	29	9	10	3	7
	伝えていない	1	1	0	0	0
	未回答	2	1	0	0	1
変化	変化があった	24	7	9	3	5
	変化がなかった	5	2	1	0	2
	未回答	1	1	0	0	0
研修の有効度		2	1	0	0	1
	有効である	29	10	10	3	6
	有効でない	0	0	0	0	0
	その他	1	0	0	0	1
	未回答	2	1	0	0	1

表Ⅱ-18 研修2ヵ月後調査結果の内容：研修者

問	回答	内容
研修で得たことを職場の方に伝えたか	伝えた	<ul style="list-style-type: none"> 報告書等で回覧 復命書を提出。正副所長→総介護長→各部署回覧 報告書の提出。 職員会で伝達講習。 月1回の職員会議で発表。 看護課会議と看護スタッフに伝達。 月1回の職員会議で、資料をコピーし、それを基に報告。感染管理・褥瘡予防・高齢者の身体と心の特徴等。 いただいた資料等で実習内容や研修の感想を伝えた。 職員会で研修内容について発表。主に褥瘡について、終末期ケアについて、全体の流れと学んだことについて。 同職種スタッフには口頭で伝達したが、介護スタッフには正式にはまだできておらず、今後やっていきたい。 看護スタッフには研修内容を伝えた。
		<ul style="list-style-type: none"> 資料を配布した 研修で頂いた資料配布。順次報告している。(4名) 感染予防等のコピー配布。褥瘡予防に関しては、実践の中で伝達。
		<ul style="list-style-type: none"> 処置、業務改善を提言した 介護職員へも、ミーティングや現場でその都度、例えば経管栄養注入時のPtの体位や準備について、あるいは感染予防対策(手洗いの重要性)について伝達。 手洗い方法について洗面所数カ所に貼っている。
		<ul style="list-style-type: none"> 勉強会開催 勉強会の開催や看護師のミーティングの中で、褥瘡についてはビデオや研修で頂いた資料を配付。リスクマネジメントについては講義の内容を伝達 看護部門(医務室)でプリント配布し学習会を行う。 看護師間で学んだ事の学習会を開いた。高齢者の人権尊重と倫理的対応、ターミナルケアを中心に発表 職員会議時に、褥瘡についての勉強会を持ち、ビデオを使用して勉強
研修後自分の業務実践に変化があったか	変化あり	<ul style="list-style-type: none"> 処置・業務を工夫した 低流量の酸素には精製水は使用しない事とした。 ヘパリンブロック時のシリンジ、委託医を介して購入した。 体交、吸引、言葉かけ、褥瘡への対応、予防に自信がついた。ターミナルについては、家族と相談しHPに行くか決めている。 感染防止で、MRSA+者に対して、専用の血圧計を用意するのを忘れていたことに気づかされた。 嚥下障害のある利用者には、訓練の方法、アイシングなど行うことができるようになった。 酸素吸入時の蒸留水の使用について検討することになった。 ナース記録の記録内容、褥瘡の治療方法を工夫してみた。感染対策についても、マニュアル作りをする必要がある。 体位変換時、褥瘡について学んだことを頭においてやっている。 褥瘡処置の折、Drに貼るタイプのドレッシング剤を出していただき使用 リハビリの時間は短いですが、継続できるよう心がけている。 しかし、毎日の仕事に流されて、学んだことが活用しきれていないと感じている。 悩んでいた経管カテーテルを、違う種類に替えて解決できた。 研修機会がなく、なかなか新しい方法に改善できなかった褥瘡処置の方法を改善できた。

	自分の姿勢が変化した	<ul style="list-style-type: none"> ・寮母さんへの指示を、自信を持って言えるようになった。 ・看護者の倫理綱領を読み合わせをしたところ、改めて看護職であることを認識し、感動的であった。 ・施設の中で、高齢者に接する自分自身の気持ちが変わった。 ・相手の目線の高さで会話するようにこころがけたり、永眠後の処置を丁寧に行うようになった。勉強になった。 ・少しでも早く出勤するよう心がけるようになった。 ・チームワークの大切さも実感した。 ・看護に対する意識の持ち方、Nsとしてのプライドのようなものを再認識し、学び続ける事により向上していきたいという思いを強くもった。 ・自分自身の意識改革はできたと思う。困難と思うことに対しても皆で考えていく姿勢が変わった。 ・気持ちを新たに看護業務に関われるようになった。分からないこと、知らないことを積極的に調べて学んでいこうとする姿勢。 ・事例に取り組むことで、施設の方針は方針として自分達が担うべき課題がたくさんあることに視点を当てた。実践する中でホームドクターとの情報交換、看護の専門性と介護の専門性、重なる部分、窓口となる相談員との連携、家族を巻き込んだ説明と理解を得ることで確実に変化してきた。自分の役割として朝の全員の朝礼で、事例の報告、看護ケア、介護の協働の点について伝達し全員で共有できるよう働きかけた。 ・具体的に実践面に変化はないが、業務の組み立て方、考え方に影響があったと思う。チームプレイでの実践にはもう少し積み重ねが必要と感じる。 ・今まで、こうしたほうが良いと思ってもあまりはっきり主張しなかった事も、研修で知り合った他施設のスタッフも同じように悩み考えているという事が励みになり、主張する事ができてきたと感じている。実際には具体的にどこがどう変わったとはいえないものの、スタッフの意識が以前より変わっているのではと感じる。 ・(研修者の働く施設では) 今までは看護師だけの手順書だったが、ワーカーさんに依頼する看護職の仕事、検温、血圧測定、状態観察の仕方など本当は看護職の仕事であった事に気がついた。これからはこれらの手順書も作り、ワーカーさんとの関係をもっと密接なものにしていき、利用者さんの健康に注意していきたいと思っている。
変化なし	自分の姿勢が変化した	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の頃は初心の気持ちで新鮮な自分でいられたが、1ヶ月を過ぎると気持ちが薄れ、業務に負われている。しかし、いただいた資料は今後の参考にし、大切にしたい。 ・介護職の方がどのような視点(生活や本人の快適さなど)で考え、行動に結び付けているかが分かり、話し合う上でも理解しやすくなった。しかし現在は職種が変わってしまったため(CM)、実践上では今後訪問ヘルパーさんなどと話す時(担当者会議など)に生かしたい。 ・福祉施設の医務室の立場はまだまだ介護職員の一人と見られている部分が多く、看護師が研修してきてもそれはそれで、現場につながらない場合が多い。
	知識・技術の向上につながった	<ul style="list-style-type: none"> ・施設での医療には限界があり、新しい知識や技術を得る機会がなかったため、とても良い研修だった。
	他施設を知ることができた	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の中で、他施設の方と情報交換できて良かった。 ・他施設の人たちとの交流・意見交換により、自分の施設との違いや新しい知識を学べた。 ・他施設の方とも交流でき、大変有効だった。

	今後の研修への希望	<ul style="list-style-type: none"> ・病院研修をしたことのない看護師に、是非研修に参加してもらいたい。 ・病院研修も良かったが、老健や特養での研修もあればよい。 ・とても有効だと思うので、継続を望む。 ・今後も大勢が参加でき、前向きに頑張るきっかけになればと思う。 ・病棟の流れの中に入るのも良いが、ピンポイントで希望をとってもらい、見学させていただくのも有効かと思う。 ・病院だけでなく他施設研修もやってみたい。 ・医療面ではなく、接遇・リハビリ (OT・PT・ST) ・ターミナルケア・訪問看護等施設に近いものを学びたい。 ・病院で行われている研修にも参加したい。 ・師長さんによる講義は、もっと時間的に長くゆっくり聞きたい。
この研修に関する意見	研修の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを持つ仲間達と出会うことができ、良かった。 ・他施設の看護師達と良い情報交換ができた。 ・大病院の最新の医療を實際体験できたことは、新鮮で自分を振り返ることができた。 ・実践を伴った研修と講義で、自分に自信が持てた。ターミナルケア全部勉強になった。 ・意識改革をすること、マンネリ化を防止すること、最新の医療を知るために、大変有意義であり、機会があればまた参加したい ・当初は病院と施設は違うから、という先入観があったが、助言や指導していただき、自分の勉強不足や認識不足を知ることができ良い刺激になった。 ・久しぶりの病院で、新鮮な気持ちで研修を受けて、感謝している。短い研修期間の中で、自分のこれについて学びたいという目標が達成できるのは難しいかもしれないが、今後自分がどうすべきなのかという気付きを学べたことはとても有意義だった。 ・医療の現場を離れているので、業務の一つ一つを確認 (項目は少なかったが) できた事は有意義だった。
	研修の課題・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・病院での研修は自分が何をしたいのかが分からず戸惑ったが、いろいろな場面を見せられて感謝している。 ・実践研修の大変さ、難しさ (心理面) を感じた。研修生の情報 (病院勤務経験等) を受け入れ病院のスタッフの皆さんに知っていてほしい。「施設看護師=知らない」と頭ら決めつけているスタッフもいて、プライドが傷ついた。 ・もう少し施設に近い療養型病床を有する病院、またホスピス等でも研修したい。 ・医療の場での研修も良いが、同じような施設での研修も現実と今後の課題が見えて良いのではと思う。 ・福祉や介護保険制度がこれからもどんどん変わっていく中で、現場で行っている事が求められている事なのか、正しい方向に進めているのかを判断するのが難しくなっている。サービスに関しても内容を充実させるためにも、他の施設に研修に入り、互いに情報交換したり勉強できる場を提供していただけたらと思う。 ・積み重ねのために前期と後期の二段に分けていただけたらよかった事と、参加者同士の交流の場がもっと欲しいと思った。 できれば他の施設見学、看取りの時の家族の方達への接し方 (を見たい)。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・研修というと教える人、教えられる人になりがちだが、今回はあまり感じることなく同じ看護者として意見交換ができて楽しかった。 ・とてもためになる研修だった。個人的には非常に良かったと思っているが、特養ホームにとってはどうかは、正直なところ疑問が残る。 ・少し遠く時間も延長で勉強させて頂いて、毎日の通いはキツかった。

表Ⅱ-19 研修2ヵ月後の質問紙調査の結果：管理者

質問	評価点数	全体	青森	長野		神奈川
			(病院研修)	(病院研修)	(施設研修)	(病院研修)
成果があった	あった	22	8	9	3	2
	なかった	3	1	0	0	2
	その他	3	2	0	0	1
	未回答	4	0	1	0	3
研修の有効度	有効である	26	8	9	3	6
	有効でない	1	1	0	0	0
	その他	2	2	0	0	0
	未回答	3	0	1	0	2

表Ⅱ-20 研修2ヵ月後の質問紙調査の内容：管理者

回答	成果・理由
どのよう なことを 期待して スタッフを 研修に出 したか	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のケアスキルアップ ・資質の向上のために専門的研修は常に大事であり、新しい情報・技術を利用者のために得ておく必要がある。 ・介護保険制度における医療サービスのあり方、ケアプランの中での医療サービス、介護現場への関連医療行為スキルの伝達指導。 ・専門性をより高める。 ・資質の向上のために専門的研修は常に大事であり、新しい情報・技術を利用者のために得ておく必要がある。 ・他施設における看護業務の様子を知る。 ・利用者本位に立った質の高いサービスを提供するため、専門的知識を習得し実践してもらう事を期待する。・看護現場から見た高齢者ケアと全体を考え見たケアを認識し、実践的再確認をしてもらうため ・老人ホームには常勤医がいいため看護師が判断しなければならない事が数多くあり、また老人ホームに勤務する看護師はこのような研修がない限り医療現場を経験する事がないため、医療現場で色々な事を修得しそれを施設で生かせたらと思ひ、研修の参加を依頼した。 ・施設○I病院の情報収集 ・施設職員のレベル向上のため ・(研修者が) 普段から色々な事に興味を持ち取り組んでいる姿勢が伺え、これに加えて外の空気に触れ、良いものがあればどのような形で自分たちの施設へ反映できるか? また、毎日忙しい業務に追われていて新鮮な空気がないことより、彼女(研修者)の刺激となり今以上に看護観を開拓できる良いきっかけになればと思った。 ・利用者ニードと、介護(看護者)側の理想像の違いに気付かせ、どのようなケアが今求められているか、また高齢者のあるべき姿とはいったいどのようなものなのかを再考するため。
スタッフの意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師の資質向上
看護師の役割の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアが増加する中で、看護師の技量や経験は益々重要なものとなっていく。 ・施設看護師としての考え方、役割の認識。介護との連携の中での立場、役割。